



知夫小中学校
Tel 08514-8-2015
Fax " 8-2312
〒684-0100 知夫村 1053-1
[HP] https://www.chibumura.ed.jp/

平成三十年度を振り返って

校長 熊本直宏

先日、中学部十名、小学部四名の卒業生を送り出し、今日は、在校生に修了証を手渡し、平成三十年度の教育活動を終えることができました。自ら立ちゆく「知・徳・体」の調和のとれた知夫の子どもの育成をめざし、授業づくりとふるまい一番、小中一貫校の強みを生かすことを考え取り組んだ一年間で、三学期は、一年の締めくくりとして「考え動く」をテーマとして掲げ、自分にとって何が大切であり、どのように行動すべきか判断できる自立した子どもの姿を求めながら、来年度につながる進路指導・進路保障に力を入れました。めざす子ども像について、三学期を中心に振り返ります。

【自ら学ぶ意欲を持って、考えたり調べたりする】

一年間のまとめとして、教科学力の向上・定着をめざしました。日々の授業実践はもちろんのこと、学力パワーアップ週間やトライタイムでのミニテストの導入、放課後学習等で学力の定着に力を入れました。また新たに家庭学習の掲示コーナーを設け、家庭学習の意欲を高める取り組みをしました。小五から中二を対象とした島根県学力調査では、十教科中九教科が県平均を上回る結果となり、確実に成果があらわれてきています。また、中学三年部の生徒達は、日々の学習の努力を実らせ、全員が第一志望の高校へと進路実現することができました。今後も少人数の強みを生かしながら、更なる学力向上に取り組みしていきたいと思えます。

【思いやりの気持ちを持って友達を大切に】

定期的な校内支援委員会を開催することで、子ども一人一人に合わせた支援の充実をめざしました。二学期は言葉遣いの評価が低かったことから、「言葉遣いを温かい言葉」先生達がつかうほか、ほかに言葉遣いを子ども、教師が共に考える児童生徒玄関に掲示することで意識を高めました。また、二学期から続けて、毎月自分が頑張ったことを振り返る「がんばったカード」を掲示し、自己肯定感の高まりをめざしました。今後もいじめ等の積極的な認知と組織的な対応を大切にすると共に、保護者との連携を密にする中で、子ども達が安心して生活できる学校づくりに努めたいと思えます。

【学校教育目標】

未来を切り拓く
心豊かでたくましい
知夫の子どもを
育成する

【めざす子ども像】

- ・自ら学ぶ子ども
- ・共に生きる子ども
- ・たくましく
生きる子ども
- ・ふるさとを
愛する子ども

【難しいと感じることも

「冬を制する者は、春を制する」をテーマに冬季の体力づくりや部活動に取り組みました。部活動等の大会では、多くの子どもが自己記録を更新する等の成果があらわれました。部活動では、第二回のメンタルトレーニング講習会を実施し、冬場の練習の心構えを学びました。生活習慣では、メディアの接触時間が長い子どもがおり、気になるところです。生活チェックシートの結果を基に継続的な改善の取り組みを進めたいと思えます。

【知夫のよさを体感し、よさを伝える】

本校のふるさと教育の集大成である「知夫未来子ども議会」、中学部三年「成果発表会」に初めて挑戦しました。地域づくりを子ども達が提案・貢献していく姿を多くの村民の皆様に見ていただきうれしく思います。また、小学部では、各地区の寄りに参加する等、地域と密着した活動ができました。来年もふるさと教育を本校の一つの柱としながら、身に付けるべき力を明確にし、進めていきたいと思えます。

保護者・地域・関係機関の皆様には、一年間を通してご協力とご支援を賜り、ありがとうございました。来年度も教職員一同力を合わせて前へ進みたいと思えますので、ご協力お願いいたします。

中学部・小学部 卒業証書授与式

【中学部】

三月十二日、中学部第七十二回卒業証書授与式を挙行いたしました。小中学生やご来賓、保護者、地域の皆様などたくさんの方に祝福される中、十名（島留学生一名）の卒業生が巣立って行きました。厳粛な中にも、卒業生、在校生の思いが感じられるとても感動的な式でした。答辞では、これまで支えてくれた家族のことや部活動で学んだこと、ふるさと知夫に



対しての感謝、島留学生として、友達への感謝、将来の夢など十名それぞれが自分の思いを堂々と述べていました。式の後には、在校生からの温かいエールを受け、別れを惜しみながらもまた新しい一歩を踏み出していました。

これまで、温かくご支援・ご指導をいただいた保護者、地域、関係諸機関の皆様に変感謝しております。ありがとうございました。今後も引き続き、温かく見守ってくださいませよう、よろしくお願ひ申しあげます。
【中学部三年担任】

【答辞より】

私は、知夫に来て自分を変えることができました。知夫に来るまで、本気で何かに取り組みことはかつこ悪いと思っていました。本気でやることは周りから浮いてしまふ、笑われるのではないかと。だから自分に自信が持てませんでした。そんな私を変えてくれたのは知夫の環境でした。人数が少ないからこそ活躍する場が多く、そして先生方や地域の方が応援してくださる中で、私は自然と本気になれるようになっていきました。自分に誇りを持てるようになっていきました。周りの人からも「変わったね」と言われ、うれしかったです。今はこの知夫に来たことに、そして知夫に感謝の気持ちでいっぱいです。

私は十五年間知夫で育って本当に良かったと思います。お大師参りや蛇巻き、一宮大祭など地域の行事ではいろんなことを学びました。そして地域の方々とたくさんふれあうことも楽しかったです。また、マラソン大会や総合学習の発表会などの学校行事でも、いつもたくさんの方が来てくださりました。こんなに地域と近い学校はありません。そんな地域の、知夫の温かさをたくさんもらって今日まで来ることができ、とても幸せに感じます。私の将来の夢はこの知夫に帰ってきて働くことです。大好きな知夫に胸を張って帰ってこられるように高校に行ってもがんばりたいと思います。

【小学部】

中学部の卒業生を見送った四日後の三月十六日に、小学部卒業式が行われました。十六名の在校生と来賓・保護者、はぐくみ寮関係者・教職員に見守られ、ぬくもりのある卒業式となりました。今年度は、小

中一貫校の出口となる中学部卒業式と九年間の通過点にある小学部卒業式とのメリハリをつけ、別れの言葉を在校生とのかけ合いの形から卒業生のメッセージを中心とした形にしました。そのメッセージで四名の卒業生は「忘れられない言葉」をテーマに「命の重さはみな同じ」「みんなちがってみんないい」「諦めたらそこで試合終了」「二期一会」について、それぞれの六年間の思いを伝えました。その思いの詰まった内容と堂々とした態度に在校生も後押しされたのか、メッセージの後の式歌「旅立ちの日に」卒業式を締めくくる校歌は、卒業生も在校生も精一杯歌いきり、広い体育館に二十名の歌声が響き渡りました。小学部での生活を終え、四月からスタートする中学部での生活に向かう節目となる卒業式となりました。小学部でのこれまでのご支援、ありがとうございました。引き続き中学部でのご支援もよろしくお願ひ致します。
【小学部六年担任】

【卒業メッセージより】

私は、小学一年生の時、自分の思う通りにならないことがあるとよく怒っていました。遊び係として、「皆で昼休みに遊ぶよ。」と言いました。しかし皆は、「いやだ。」と言うので他の人と遊んでいました。そのことを泣きながら先生に伝えに行きました。すると、担任の先生が金子みすずさんの詩「わたしと小鳥とすずと」を何回も聞かせてくれました。

【詩省略】

この詩を読んだ後、先生が「何でも自分の思うとおりにならないんだよ。」と教えてくださいました。小学三年生の時には「みんなちがってみんないい。」という言葉や「何でも自分の思うとおりにならないんだよ。」という言葉を意識しました。そのおかげでけんかをする回数が減りました。また、けんかをした後はすぐにあやまることができるようになりました。

六年生になり、学級の中で女子は私がいまいませんでした。他に女子がいなくてさみしかったです。でも男子は、私を一人ぼっちにすることなく優しく接してくれました。

中学部に進学しても、「みんなちがってみんないい。」という言葉や忘れずに、友達の間で言葉や言葉をきちんと受け入れ、毎日皆と明るく過ごせるようにしたいです。



みんなでつくった送る会 ～ 中学部3年生を送る会～

中学2年生が中心となり考えた送る会でしたが、全校児童・生徒が役割分担をして準備をしました。在校生全員が学級の「出し物」。小学部1年生～4年生が「くす玉」。保健体育委員会には、3年生への「プレゼント作り」を、そして文化福祉委員会には、送る会の「特大看板」など、在校生と小中の教職員全員が一丸となりつくり上げた会となりました。また、小学校からの担任の先生からのビデオメッセージや手紙、保護者からのスライドなどが紹介され、心温まる会となりました。以下は、生徒会長と副会長の感想です。「生徒会担当」

生徒会長

僕は、送る会の企画・運営を担当しました。去年の3年生を送る会がすごかったので、それよりも良い物を作ること目標に頑張りました。何度も繰り返し考え直し、一生懸命に準備をしました。苦勞したことは、今年のテーマ「前進」にあう「イノシシ」作りでした。特大のイノシシオブジェを一つと、十人分のかぶり物をカラフルに作りました。すごく大変でしたが、みんなの力を借りて作り上げる事ができました。2年生は人数も少ないため、チームワークを大切に、与えられた担当場所を一人一人が責任を持って果たすことを心がけました。3年生たちに、「すごく楽しかった」と言ってもらえて本当に嬉しかったです。

生徒会副会長

僕は、レクリエーションでのゲームやBGMを担当しました。最初にこの担当が決まったとき嬉しかったです。でも、3年生が楽しく笑顔になるゲームを考えるのが一番大変で時間もかかりました。そして、ゲームが決まると、司会進行もやらないといけないので、不安で昼休みずっと練習をしました。それを見ている有己くんが良かったです。本番は、緊張しましたが、自分に自信を持ってレクリエーションをしました。周りの友達も盛り上げてくれて、成功させることができました。みんなに感謝しているし、3年生が喜んでくれたので良かったです。



ふるさと教育（総合的な学習の時間） ～ 中学部2年生「知夫未来子ども議会」～

今年度、知夫小中学校は「ふるさと教育」の9年間の内容について見直しをしました。小学部1・2年生を「入門期」、3・4年生を「前期」、小学部5年生から中学部1年生までを「中期」



中学部2・3年生を「後期」と位置づけ、それぞれの時期に子どもがどのように知夫村の人・地域と交流し、地域の取り組みに参加するのか。そして、そこでどのような力をつけるのかを検討しました。

今回、紹介する中学部2年生は「後期」の位置づけです。後期のふるさと教育のテーマは、「地域の大人と協働し、知夫のために行動する」であり、めざす児童・生徒像を「知夫の未来を描き、提案、行動する子」としました。島根県が、総合的な学習の時間などに「ふるさと教育」を取り入れて以来、知夫小中学校の児童・生徒は地域の課題を取り上げ、その解決に向けた方法を校内における発表会で発信してきました。

しかし、子ども達からすれば「自分は誰に発信しているのか…。」「発信したことが、実現される可能性はあるのか…。」「なぜこのような発信（発表）をするのか…。」というようなことを感じるのではないかと思えます。特に学年が進むほど、そのようなことを思う生徒が多かったのではないかと考えていました。

そこで、子ども達がより真剣に準備（調査活動）に取り組み、より楽しく発表に臨むことができるよう、知夫小中学校のふるさと教育「後期」中学部2年生で子どもたちの発信相手を知夫村（村行政）とし、提案を村長に直接聞いていただく機会をつくることにしました。

そして、今年度初めて取り組んだのが、知夫小中学校中学部2年生による「知夫未来子ども議会」でした。

議会当日は、発表する先輩（中学部2年生）を支えるために、中学部1年生2名が前半と後半に分かれ議長を務めました。そして、発表する2年生5名は次の題名で村長に提案をしました。

- 1番 「知夫の資源を生かした肥料づくり」
- 2番 「わくわく感のある観光」
- 3番 「子どもの遊び場」
- 4番 「島留学」
- 5番 「親子島留学」

議長役の生徒も、発表する生徒も、村長・副村長・各課課長らを前に緊張していたようですが、準備した原稿と自身の想いを併せて懸命に役目を務めました。生徒たちの意見が今後活かされることがあるのか、生徒とともに村政により関心を持っていきたいと思えます。

知夫村の行政当局には、昨年の夏ごろから相談させていただき、学校の願いを常に前向きに受け止めていただきました。平木村長や議会事務局長をはじめ、子どもたちの提案書に目を通し意見をくださった各課長の皆様、また、子どもたちの調査に丁寧に答えてくださった知夫村の皆様、関係機関の皆様には、大変感謝しています。この取り組みが、次年度以降も知夫村に受け入れていただけるよう、我々知夫小中学校は日々の教育活動に誠意をもって取り組んでまいります。この一年、本当にお世話になりました。

二月二十一日は竹島の日 ～ 竹島の学習 小学部5年生～

いきなりですが、皆さんは竹島についてどれほど知っていますか。竹島が日本固有の領土であることは、多くの人が周知のことだとは思いますが。しかし、昔、竹島でアシカ漁を行っていたことや韓国が一方的に領土の線引きをし、勝手に警備隊を置いていることなど今のような竹島の問題が起きていることはご存知でしょうか。

5年生の子どもたちも初めて知ったことが多く、授業の中で「竹島で漁がおこなわれていたのは知らなかった。」「不法占拠するのはおかしい。」など一人一人が竹島の問題に対して真剣に考える姿が見られました。

私たちは竹島について意外と知らないことが多いと思います。私自身も今回の竹島の学習のために勉強して初めて知ることが多くありました。

「竹島問題を解決しよう!」と聞くとは難しく感じると思いますが、まずは子ども達が竹島について知らないことを知ることを大切にしたいと思います。
〔五年生社会科担当〕

人事異動のお知らせ

この度の人事異動により、左記の者が、転任することになりました。在職中は大変お世話になり、ありがとうございました。

転校生のお知らせ

この度、知夫小中学校を転出する児童・生徒を紹介いたします。新たな学校での活躍を願っています。

